

昭和町立西条小学校 学校評価 自己評価書

令和5年3月1日

I 学校教育目標

確かな学力を身につけた心身ともに健康な子どもの育成
～知・徳・体・志の備わった子どもの育成～

II めざす児童・学校・教師像

1. めざす児童像

(1) 自ら学び、考え、判断し、主体的に行動できる子ども（確かな学力）

- 基礎的・基本的な知識や技能を身につけた子ども
- 思考力・判断力・表現力などの課題解決力を身につけた子ども
- 学習や課題に主体的に取り組む子ども

(2) 豊かな人間性や社会性を身につけた子ども（豊かな心）

- 相手を思いやる優しい心や豊かな感性を身につけた子ども
- 仲間と一緒に活動できる対人関係能力を身につけた子ども
- 進んで読書に親しむ子ども
- 規範意識を身につけたきまりを守る子ども

(3) 健康でたくましい子ども（健やかな体）

- 基本的な生活習慣を身につけた子ども
- 健康や安全に気をつけて生活する子ども
- 運動や遊びを通して体力向上に努める子ども

(4) 夢や希望を持ち最後まで努力する子ども（高い志）

- 自分の力でしっかり考え、判断し、行動できる子ども
- 目標を持ち、自分の意志で挑戦し続ける子ども
- 困難に出会っても、最後まで粘り強くやり抜く子ども

2. めざす学校像

- 子どもや職員が生き生きと活動する学校
- 子どもや職員が安心して活動できる学校
- 子どもに生きる力を育む学校
- 子ども・保護者・地域とともにある学校

3. めざす職員像

- 子どもに対する愛情や思いやりをもった職員
- 職に対する使命感や誇り、情熱、向上心をもった職員
- 教育の専門家としての力量を身につけた職員
- 豊かな人間性や社会性など、総合的な人間力を身につけた職員

Ⅲ 学校経営方針

1. 子どもや職員の安全を第一に考え、安心して活動できる学校づくりをすすめる。
(新型コロナウイルス感染症予防と対策、対応の徹底)
2. 子どもたちに、生きる力を育むため、適切な教育課程の編成と実施に努める。
3. 保護者や地域との連携を密にして、地域とともにある学校（コミュニティ・スクール）をめざす。
4. 適切な情報を保護者や地域に発信し、本校教育への理解を深めてもらう。
5. 適切な学校評価と PDCA サイクルの確立により、学校改善に取り組む。
6. 教職に対する情熱や使命感、専門家としての力量、総合的な人間力を向上させ、職員の連帯と協働により組織で学校運営にあたる。
7. ICT教育の推進と充実に努めるとともに、GIGAスクール構想への対応を進める。
8. 外国語教育強化地域拠点事業の研究成果を発展させ、グローバルな社会の進展に対応できる子どもの育成をめざす。

【 評価方法 】

児童、保護者、教職員の3者に対してWEB上のアンケート機能（Google Forms）により回答を得た。（一部回答用紙での回答あり）質問に対しての回答選択肢は、基本的に4段階になっている。

A：とても・よく～している

B：だいたい～している

C：あまり～していない

D：～していない

（E：わからない）

このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶかCとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりもA・B合わせてのプラス傾向C・D合わせてのマイナス傾向として集計の方が全体的な傾向をつかみやすくなる。

そこで A・B・C・Dの選択肢を点数化し A=4 B=3 C=2 D=1として集計し、回答者数で割って平均点数をもとめた。平均点数は次のような意味をもつ。

○全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は2.5以上になり、4点に近づいていく。

○全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は平均点は2.5未満になり、1点に近づいていく。

なお、保護者のアンケートには回答の選択肢として E：わからない を設けるが、これは点数には含めない。

IV 全体評価

教職員アンケート、児童アンケート、保護者アンケートのそれぞれの集計結果を見ると、いずれも昨年度と同様に、肯定的な評価の値が高い結果となった。

令和3年度から、保護者、児童へのアンケートについては、「Google Forms」を利用してWEB上で回答する形式とした。（教職員については、令和3年度2学期の2回目のアンケートから）

それまでの、アンケート用紙への記入式と回答方法が異なるため、回答内容にも影響が出ていると考えられる。評価項目については変わらないが、用紙に記入して封筒へ厳封して提出するこれまでの方法と比べると、スマートフォンを使って気軽に回答ができるため、否定的回答もしやすくなっていると思われる。経年比較をするためには、同様の方法を継続していく必要があるだろう。

また、児童については、1人1台のタブレット端末を用いて回答をさせたが、低学年については、操作方法に慣れていなかったり、一時的な心情だけで回答したりすることもみうけられるので、回答時には丁寧な指導が必要である。

- ・教職員の自己評価の結果は、40の質問項目に対し、すべての項目で評価の平均が3.0を上回る高い評価結果であった。
- ・児童アンケートの結果は、18の質問項目のうち、16の項目で評価の平均が3.0以上のプラス評価だった。評価の平均が3.0を下回ったのは「あなたは、手を挙げて発表していますか」「あなたは、地域の行事等に進んで参加していますか」の2項目であった。
- ・保護者アンケートの結果は、18の評価項目のうち、すべての項目で評価の平均が3.2以上のプラス評価だった。

以上のことから、西条小学校では学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて、一人一人の教職員が保護者の理解と協力のもと、それぞれの職務を遂行してきたことにより、教育活動全般にわたって適切な指導が行われ、そのことが児童や保護者に肯定的に評価されていると考えられる。従って、本校の学校評価に係る総合的な評価は概ね良好な水準にあると言える。

しかし、一つ一つの結果に目を向けてみると、優位性は見られないまでも昨年度からポイントが低くなっている項目や、プラス評価ではあるがポイントが相対的に低くなっている項目が各アンケートで見られる。教職員、児童、保護者のそれぞれの調査について、以下の「アンケートごと（教職員、児童、保護者）の評価」で考察し、課題を明らかにしていきたい。